

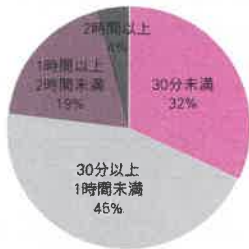
メディアへの対応

大山中校区の取り組み

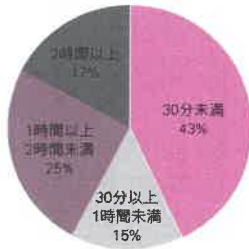
大山中学校区では、メディア対応について共有し合い、中学校区の家・学校が連携して、基本的な生活習慣の定着を目指しています。

(グラフ1)

平日のゲーム利用時間



大山中学校



大山西小・大山小6年生

【子どもたちの実態と課題】

6年生と中学生を対象に、平日にどれくらいゲームをするのか調査(グラフ1)を行いました。

6年生では、およそ2割が2時間を越えていました。中学校では2時間を越える割合は少ないものの、テレビやインターネット等との時間を合わせると平日のメディア利用が2時間を越える割合が高くなっていることがわかりました。

家庭学習の時間とメディア利用の時間は、密接に関係しており、早急な改善が必要です。

【児童・生徒への指導】

①メディアとの長時間接触

メディアとの長時間接触は、生活リズムの乱れに直結し、睡眠不足から翌日の学習への集中力を低下させます。良質な睡眠をとることは、朝から意欲的に活動・学習できるだけでなく、自尊心にまで影



▲全校でメディア学習

響すると言われています。成長期の子どもたちにとって、身のまわりにあふれるメディアと上手につき合うこと(メディアコントロール)は、欠かせないことだと言えます。

寝る時刻・学習時間を設定し、そのほかの時間の中でルールを守りながらメディア機器を使用することを子どもたちに指導しています。

②ネット依存と被害について

県PTA協議会から提案の「メディアニコ運動」についても小学生のうちからの予防的な指導が大切です。ネット依存・被害など、様々な問題が毎日のように報じられています。ケータイ電話やスマートフォンを持たない選択も含めて、インターネット

やゲームのルールを家庭で話し合う大切さを発信しています。

中学校では、「インターネットやスマートフォンをめぐるトラブル」について全校生徒を対象に講演会を実施しました。ネット依存の危険性やメール、LINEでのトラブルについての指導を行い、インターネットやメールを正しく利用していくことの理解を深めました。

【保小中連携によるノーメディアの取り組み】

保育所・小学校・中学校が連携し、時期を合わせてノーメディアに対する取り組みを行っています。

小学校では、「家族でチャレンジ」(大山西小)、「生活・学習がんばり週間」(大山小)、中学校では、「ノーメディアウィーク」の取り組みを行っています。起きる時刻や寝る時刻、メディア機器使用時間を決め、家庭で生活リズムの強調週間を実施しています。保育所でも、小学校の取り組みをもとに、「アウトメディア

にチャレンジ」の取り組みを行っています。ヒヨコ、ペンギン、ウサギなどコースを決め、家族で話し合いながらアウトメディアにチャレンジしています。

強調週間は、「保護者のがんばり週間」であると認識して、取り組んでおられる家庭が増えていきます。「テレビを見ないと、家族の会話やスキップが多くなった」という感想が増えていきます。

【PTA活動】

PTA主催で、県ケータイ・インターネット教育推進員を招き、「スマホのリスク管理・フィルタリング体験会」のタイトルでiフィルターの体験研修会をしました。私たち大人がしっかりとした知識と覚悟を持って、子どもたちにメディア機器をわたす必要性を教えていただきました。今後子どもたちを取り巻くメディアの現状やメディアとの良好な関係づくりについて、認識を深める取り組みを進めていきたいと考えています。